レッスンSPA.16

テーマ：イドロプラシー＋

SPA.16DOC/PYR7.K6.1196

私の姉妹、兄弟たち、

スピリット、光、火の子供たちよ。私たちは常に主、絶対、神の聖性に抱かれています。

これまでのレッスンで、真理の探究者にとって気づきを高める唯一の方法はエーテルの特質をマスターすることであると述べてきました。そのために多くのエクササイズを提供してきましたが、約束したとおり私たちはエーテルの特質をマスターするための別のいくつかの新たなエクササイズを提供しなければなりません。それらのエクササイズは過去に提供したエクササイズとは異なっています。

ご存じように実際にはエーテルは一つです。様々な異なったタイプまたは形態のエーテルがあるわけではありません。なぜならエーテル・バイタリティー（＊エーテル活力）とは創造界のあらゆるものを活性化する生のスパークであり、私たちがエーテルの特質と言うとき、それはこのエーテルを指しているからです。私たちがチャージ（＊充電）される必要のあるエーテリック・ダブルについて述べるとき、そのチャージは別のものとは考えないでください。確かに私たちにはいくつかのエーテル体がありますが、そのエーテル体はマインドのあるバイブレーションによって築かれており、形を持つそのダブル・エーテリック体を維持するためにエーテル・バイタリティーとしてのエーテルがあるのです。

ですから、私たちの内側におけるエーテルの特質のマスターについて述べる時、それは身体の外側からそれらの特質をマスターすることとは異なるのでしょうか？答えはノーです。自分の身体の内側のエーテルの特質をマスターするとき、ダブル・エーテリックを活性化するエーテルは、あらゆる所に遍在するエーテルの特質をマスターするのと同じです。あらゆる天体はこのエーテルの活力（バイタリティー）の海のなかで遊泳しているのです。このバイタリティーが存在しなければ、マインドも存在しません。

真理の探究者はエーテルの三つの特質だけを扱い、四つ目のものは三つの特質をマスターした時に加える、と述べてきました。一つは感覚エーテル、二つめは運動エーテル、三つ目は刻印エーテルです。三つのエーテルですが、実際には練習は二つについて、つまり刻印エーテルおよび感覚エーテルについてです。運動エーテルは常に働いており、特定のワークにフォーカスする瞬間に、さらに何かを理解するときにさえ、そこには運動エーテルが働いています。運動エーテルは非常に簡単であり、難しいのは他の二つの特質です。

さて、エーテルの特質のマスターと言うとき、現在のパーソナリティーが無知の限界のなかにいる間、本当にそれらの特質をマスターすることが可能なのでしょうか？それらの特質を完全にマスターするということは、それは現在のパーソナリティーの不定形な諸体を再形成するのを同じです。それでは、私たちは達成するために今何をマスターすべきなのでしょうか？それらの特質に関して、異なったレベルでマスターすること、それが前に進む唯一の方法です。完全にマスターするということは現在のパーソナリティーが自己実現に到達することを意味し、その時初めて四つ目の特質、創造エーテルが現在のパーソナリティーの手に与えられます。

この創造エーテルの特質を使っていると主張している人が多くいますが、本当に彼らはそれを使っているのでしょうか？答えはノーです。彼らがある現象を行う時、その特質を使っていません。彼らは反対の結果をもたらすエレメンタルを使って行っています。なぜなら、エーテルのこの特質の使用を達成する他の唯一の方法とはテクニカルな方法によるものだからです。この点を理解する必要があります。現在のパーソナリティーがこの特質を完全に使うためには、そのパーソナリティーは自己実現に到達している必要があり、その時には同胞の人間に奉仕するためにそれを行うのです。

ですから、もし探求者が本当に悟りを得たいのなら、より良いセルフを表現することを願い、また実際には墓である自分の部屋のドアーを開いて地上に立つことができるようになるのを願うなら、これら三つの特質は非常に重要です。この地面の中で出会うものと直面するために必要な手段全てを得るために必要な唯一の方法とは、エーテルの特質をマスターすることです。現在のパーソナリティーにとって他の方法はありません。

さて、現在のパーソナリティーとして私たちは五感を使っています。これらの特質をマスターするためには私たちは五感全てを使う必要があります。いわゆるイコノプラシー(iconoplacy)のエクササイズです；イコノプラシーとはギリシャ語でアイコン、イコンを創造するという意味があります。無知のなかにいる人間にとって、この形は二次元になっています。一次元は点であり、二次元は表面上における点の動きです。私たちはそのように理解しており、言葉を与えて意味を創造しています。しかし、過去に何度も説明したように、実際にはそのような意味は存在しないのです。

次元は人間が創造したものであり、実際にはバイブレーションであり、次元ではありません。ですから、イコノプラシーのエクササイズでは私たちは常に運動エーテルおよび刻印エーテルを使います。ここでは刻印エーテルは非常に重要です。さらにまた、ある程度まで感覚エーテルも使います。最初は運動および刻印エーテルの二つだけを使い、感覚エーテルは使いません。イコノプラシーにおけるより複雑なワークに進んだときには、そのアイコンが何を意味するかに応じて、特定のフィーリングを創造するかもしれず、フィーリングは感覚エーテルです。そして感覚エーテルのセンターはサイキカル体です。

その次のエクササイズはいわゆるサーフェスオプラシー(surfaceoplacy)です。それは英語とギリシャ語を結びつけてできた言葉で、表面を創造するという意味です。表面はどこにでもありますね。私たちはどれだけ多くの方法でその表面について学ぶことができるでしょうか？いわゆるイコノプラシーのために私たちはどれだけ多くの感覚を使ってきたでしょうか？実際には、私たちが使ったのはビジョンだけです。

それではサーフェスオプラシーについてはどうでしょうか？私たちはビジョンを使うことができ、触覚（タッチ）を使うことができます。ですから、二つを使うことができるわけですが、もしそうしたければ一つだけ、つまりビジョンを使うこともできます。それはイコノプラシーとあまり違いません。そして触覚（タッチ）ですが、私たちは両方を同時に使うことができます。ビジョンを通じて現在のパーソナリティーが詳細を理解、認識できない場合、触覚を通じて突き止め、理解することができます。ですから、イコノプラシーがあり、サーフェスオプラシーがあり、他に何があるでしょうか？偶像を創造するための、いわゆるイドロプラシー(idoloplacy)があります。私たちは偶像、エレメンタルを創造します。もちろん、ある程度まではいわゆるサーフェスオプラシーでもできます。それは表面の一部であり、詳細な表面なのですが。

ですから、二次元および三次元のサーフェスオプラシーが同時にあります。常に同時にあるわけではありませんが、しかし二次元および三次元が同時にあることもできます。しかし、イドロプラシーは三次元です。

私たちは五感の使用を通じて、これらのエーテルの特質をマスターすることのできるエクササイズを行います。エーテルのこれらの特質をマスターするために、現在のパーソナリティーに与えられた全ての能力を用います。それでは、全ての感覚を用いるエクササイズを提供します。

エクササイズ：SPA16.NO.1/イコノプラシー

まっさらな白い紙を用意し、この紙に大文字を書きます、例えば“A”という文字です。それを赤で書きます。それを自分の前に持ってきて、少し離して持ち、それにフォーカスします。その表面について非常に詳細に見て、自分の前にあるもの全てを視覚化（イメージ）しようとします。しばらくしたら目を閉じます。その視覚化（イメージ化）が自分のなかに留まっているかどうかをテストしてみます。もし眼を閉じた後でそのイメージがすぐに消えてしまうようなら、直ちに目を開いてもう一度それにフォーカスします。しばらくしたら、もう一度試してみます。そのイメージが消えたらすぐに両目を開けます。私たちはこれをだいたい10～15分行います。その人次第ですが。しかし。疲れすぎないようにしてください。もちろん、目指すところは出来るだけ長く映像としてのイメージを保つことであり、その後で、その紙を目の前に置かなくてもいつでも自由にその映像を細かな部分までイメージできるようになることです

いずれにせよ、このエクササイズは潜在意識の表面にサジェスチョン（＊暗示の言葉）を置く、という以前に提供したエクササイズに使ったのと同じメソッドです。現在のパーソナリティーの墓のなか、つまり四面ピラミッドの下で行うより進んだワークに進むためには、これらのエクササイズの結果が必要となります。しかし勿論、決して遅すぎるということはありません。今でも、もしあなたがこれらのエクササイズを真剣に、定期的にやり始めれば、何かを達成することができ、さらに進んだワークへと進むことができます。ですから、イコノプラシーとは、いつでも意のままにイメージを映像化できることです。表面にもっと多くのアイコンを用いることによって、このエクササイズをより複雑なものにして練習することも可能です。目的は絵のとても細かな部分まで映像として保つことができる、ということです。このエクササイズのためにホワイトボードを利用して、その上に物や絵などを置いても良いでしょう。

目の前にあるそのボードを、その表面を見る時には、その方向だけに注意をフォーカスするのであり、それ以外のものには注意を向けません。

目を開いたままボードの表面にフォーカスします。他には一切注意を向けません。それはまっさらな白です。少し目を閉じてみると、目の前に浮かぶのは白い表面、何も書かれていない白いボードだけです。もしその映像が消えかかったら、目を開けてもう一度同じようにやります。例えボード上に何もなくても、映像をより長く、はっきりと保つことができるればできるほど良いのです。

それではこのボード上に何かを加えてみます。その詳細を視覚化します。もちろん、視覚化（映像化）するのはボード上にあるものだけではなく、白い表面も視覚化し、白いボードとそこに置かれたものの両方をイメージします。目を開けてそれにフォーカスし、細かな部分までよく見て、それから目を閉じると、閉じた目の前に映像が現れます。それが消えかかったら、目を開きます。初めは、目を開けて、目を閉じてというように速くやっても構いません。

これは最も簡単なやり方です。ということは、前に進むためには多くのもっと難しいワークが必要となる、ということです。さもないと、探求者が何も得ることなくして、ただこちらが知識を提供するだけになってしまいます。

もし探求者がリアリティーへと向かう道の上で、異なったレベルにある現実（リアリティー）に自分の指で触れたいのなら、この種のワークをする以外に方法はありません。これはマインドの様々な異なったバイブレーション、自然の様々なエレメントをマスターするための唯一の方法です。これ以外に道はありません。現象を生み出す他の全ての現象的方法はそのパーソナリティーが行っているのではなく、ミーディアム（媒体）、つまり存在する他の実体を使って行っているのです。しかし、そのようなやり方は真面目な探求者、同胞の人間に奉仕することを願う人、愛の奉仕者になることを願う人がやるべきことではありません。なぜなら、適切なプロセスを経ることによって、その人自身がもっともっと光を放つことができるようになるからであり、このことを理解する必要があります。特にこの人生において、創造界にあるすべての良いことは、ハードなワークを通じて得る必要があります。

エクササイズ　SPA 16/NO.2　サーフェスオプラシー

（サーフェスオプラシーのエクササイズを通じて、私たちは初めに表面を扱い、アイコンとしての表面を学びます。しかし、この感覚、ビジョンの使用を通じて私たちは表面上のごくごく細かなものにまで気づくことはできず、全ての詳細を認識するには触覚を使う必要があります。このエクササイズのためにはたくさんの対象物を使います。

それでは次のエクササイズに進みますが、そこではこの（＊三次元の）バイブレーションではない表面をあなた方に提供します。それでは目を閉じて行います）

目を閉じて静かに座り、心を騒がせているもの全てを解き放ちます。真っ白な自分をイメージし、自分の形の境界を感じます…同時にあなたは今、五芒星の白い輝きのなかで守られています。これからあなた方一人一人に私が白い大理石の板を渡します…その板は縦横が約30センチの正方形、厚さは１センチですからある程度重さがあります。それではその板を両手で持ちます…真っ白です…次にそれを膝の上に置きます…もはやそれを手で支える必要はありません…膝の上にあります。下を見ると膝の上にその板があるのが見えます。それではその板の表面を見て、観察しましょう…ビジョンの理解を通じたあなたの理解では、それは真っ白で、何もありません、傷もついていません…ですからビジョンはその表面に何か詳細があるか否かを理解する助けにはなりません。あなたの膝の上にある板をイメージします…両膝をイメージする必要はありません、板だけをイメージします。この状態では勿論目を開けたり閉じたりする必要はありません…ただ板だけにフォーカスし、そのイメージが来ます…なぜなら、板は実際にあなたのためにそこにあるからです。それではあなたのエーテルの右手をその板の真ん中に置きます…手の平を板の表面に置きます…手を置くとまず温度の違いに気づきます…板はあなたの周囲の空気より少し冷たくなっています…それでは右手を円上に動かして板の表面をなでてみます…最初はなでる円の直径はとても小さいのですが、動かしていくうちにその直径は次第に大きくなっていきます…その板のより大きな面積をなでるようになっていきます…円状に数回手でなでていくうちに、板全体をなでるようになります…それでは次になでる円の直径を少しずつ短くしていきます…そしてゆっくりと徐々に板の中心に再び戻ります。この触覚を使ってもまだ板の詳細はわかりません…それでは右手を少し挙げて、手の平ではなくて指先だけが触れているようにします…あまり強く押さずに、前と同じように動かします…その板の表面を円状になでます…すると平らで水平な部分はもっと小さいことがわかります…ピンの頭の百分の一よりも小さいことがわかります…表面全体をカバーした後で再び中心に戻ります。これを多数回繰り返し行って、触覚を使ってイメージ化をし、いつでも意のままにこのような視覚化ができるようにします。それでは、あなたの前にある板の表面にもっとはっきりした詳細が創造されます。触覚を使って板の表面を吟味していくことによって、表面にそのイメージをもたらすことができます…表面における円状の動きを続けます…表面に触れているのは指先だけ、エーテルの右手だけです。この板の表面に創造された詳細とは板の端から端に掘られた十字です。

勿論、家でこの最後の練習をするときには、目の前にあるシンプルな表面を使って調べることによって行います。もし白い大理石の板がなかったら、それに似たものを使うことができますが、初めは常に白いものを使います。そしてその表面に何か傷をつけます。もちろん、その表面を見、触覚を使う前にその表面を吟味することができます。しかし、触れることは適切な視覚化にとってとても役立ちます。というのも、前に述べたようにビジョンだけでは表面のすべての詳細にアプローチすることはできないからです。触覚を使ってそれを行います。勿論最終的には、四面ピラミッドの下の部屋のなかで、この種のワークを他のワークと結びつけて行うようになります。

質問：

質問：何かに集中している時、自分の意識を動かしていると言うことができますか？

Ｋ：そうです、ある程度まで自分の意識を投射しているのです。

質問：一生懸命努力して行うべきですか、それともあまり努力せずに行うべきでしょうか？

Ｋ：あなたが努力をするやいなや、あなたは努力にフォーカスすることになります。わかりますか？いかなる圧迫感もない状態で行います。

質問：どうやって両方を区別するのですか？

Ｋ：私はフォーカスします。フォーカスする必要がありますが、そのための努力はしません。自分自身を自由にしておきます。リラックスしています。フォーカスしますが、そうしようと努力したり、プレッシャーを与えることはしません。プレッシャーをかけた途端、あなたは何事にも成功しないでしょう。リラックスし、現在のパーソナリティーの心を騒がせているその日の出来事全てを忘れます。潜在意識からの影響をスイッチオフにする能力が必要です。それによって現在のパーソナリティーは潜在意識の表面に新しい暗示を置くことが可能となるのです。それらの暗示は表面に留まって、徐々にゆっくりとその人を変えるのです。なぜなら、潜在意識の表面にあるものは全て、あるレベルにおける思考・行動の仕方の原因となるからです。それがその人という現れ、気づきのレベルを示すからです；私たちが潜在意識と呼んだ海の表面にあるもの全てです。現在のパーソナリティーにとって益にならないものは、その上に別のもの、新たな別の暗示を置くことによって下に沈める必要があります。そしてその新しい暗示を表面に保っておくのです。それを行うにはこの種のワークが必要です。

質問：あなたは実際には次元ではなくてバイブレーションがある、と言いましたが何故でしょうか？

Ｋ：それについて今詳しく説明することはしません。次元は人間にとって理解しやすいものですが実際にはそれはリアリティーではありません。次元とは絶対存在によって創造されたものではなく、それは意味です。つまり、人間が解釈したものです。以前に述べたように人間はそれについて理解することなく述べており、時には神秘家でさえも言っています…３つ、４つ、あるいは５つの次元があるだけでなく、もっと多くの次元があると。次元とは無知の結果として創造されたものであり、いわゆる五次元の先には（もちろんそれもまた無知の結果として人間がそう呼んでいるのですが）、生それ自体があり、そこには次元はありません。

ですから、最も高い所にいる人間はその気づきのフィルターに従って、最も高いノエティカル界を解釈することができるのです。それだけです。五次元以外にももっと次元があるとどうして言えるのでしょうか？さまざまな異なったバイブレーションのマインドがあります。というのも、私たちが表面とみなすものは実際には表面ではないからです。全てのなかに全てがある…それがリアリティーです。

点は人間によって一次元とみなされていますが、点はまた全てであるとも考えています。それがリアリティーです。無知のなかにいる人間が理解した次元はどこにあるのでしょうか？いかにして神秘家は次元について述べることができるのでしょうか？私たちはそれを受け入れません。私たちは真のリアリティーだけを話すべきです…たとえ、私たちがそこにアプローチすることが不可能であっても。勿論、存在の諸世界へはこの地球上のいかなる神秘家でもアプローチすることはできません。地球全体がそのレベルに到達するまでは、アプローチすることはできません。

いかにして彼らは存在の諸世界について述べることができるのでしょうか？この地球上ではまだだれもテオーシス（＊神との再合一）に到達した人はいません。いつ誰もがそれを行うようになるでしょうか？そのレベルに到達した人は誰でも、他の人々を後に残して行くことはしません。さもないと、生それ自体の多くの特質を表現するというそのレベルへの到達に値しません。それらの特質とは純粋なるアガピ、愛以外の何ものでもありません。自己実現のレベル、最初の十字架での磔のレベルに到達した人は“自分自身のために”他の人々を後に残して去ることはしません。

ですから、このポジションから上に関して私たちが“知っていること”は全て、同調を通じてであり、同化によるものではありません。同化とは生の現象のバイブレーションに対するものではありません。それは生それ自体に対するものです。それを明確にしておく必要があります。残念なことに、彼らはリアリティーを圧搾してこのレベルにもたらそうとしています。そして彼らはテオーシスについて、即座にテオーシスについて述べているのです。

彼らはほんの僅かしか知りません、私たちもまたほんの少ししか知りません。しかし、私たちは自分たちの過ちを認識し、そして前に進むのです。過去に神との再合一の状態にあった唯一の人、将来においても唯一の人、それは最愛のお方であり、その方は人間とはみなされていません。なぜなら、その方は天の人であり、全体の現れであり、同時に全ての人間の中に存在し、この諸宇宙のなかの全ての人間が表現すべき理想です。残念なことに、パーソナリティーを天なる人と比べようとする人々がいます。この地球上には様々な時代に多くの霊的指導者がいましたが、そのお方は他の霊的指導者とは全く異なっています。その方のガイダンスはその人が属する民族、宗教にかかわりなく全ての人の内側にあるのです。

残念なことに、人間はクリスチャンとは何かについて誤解してきました。それは宗教でしょうか？クリスチャンとは同胞の人間たちに対してアガピ、愛を表現する人のことです。それは古代エジプト、古代ギリシャにおける神秘学のいろいろなグループが目的としていたことであり、それは人々が気づきを高め、より多くの愛、より良いセルフを現すことができるよう助けるためです。その人の現れによってあなたは誰かがクリスチャンであるか否かを判断することができます。その人が行っていることによって判断することは困難でしょう。なぜなら、人々は時には偉大な役者であり、他人をだますこともあるからです。しかし、もし時間をかけてその人の現れを見ればそうであるか否かを見分けることができるでしょう…短時間ではなく、何回も時間をかけて見れば、特にその人がプレッシャーの下にある時に見ればより見分けやすいでしょう。

ですから仏教徒であろうと、ヒンズー教徒であろうと、イスラム教徒であろうと誰でもクリスチャンであり得ます。それがクリスチャンの意味です。もし私がクリスチャンであるかどうかと尋ねられるとすれば、私は「そうなるように努力しています」と答えることでしょう。

EREVNA SPA16/KE6PYR7/